



どろんこ祭りの最後は、農業科3年生全員で記念撮影。楽しい思い出づくりもできたでしょうか？



まさに泥まみれです。これぞ、どろんこ祭りの真骨頂とも言えるべきでしょうか。後ろと正面がよくわかりません。



祭り終了後、水田の裏手を流れる用水路で泥を洗い流す生徒たち。実にワイルドです。



水田サッカー。泥に足を取られ、なかなかまともにボールを蹴ることができません。倒れ込む生徒に教員、たたずむ生徒も。



黄色いボールを先に捕まえた方が勝者となる、ビーチフラッグならぬ田んぼフラッグ（ボール）競技でダイビングする生徒たち。しかし、ボールだけになかなか掴みとることができない…。(左写真)



軽やかなステップで走り抜ける生徒。えっ、これって水田の上？



サッカー競技などそっちのけで、倒し合いを行う生徒たち。まるで、サバイバルゲームだ。

生徒と教員の交流を深める

# どろんこ祭り

鹿屋農業高等学校農業科の生徒と教職員62人が、同校実習田で、今年のコメの豊作と生徒全員の進路決定の願いを込めて、「どろんこ祭り」を行いました。  
今回は、その様子を写真で紹介します。

6月18日、古前城町の  
県立鹿屋農業高等学校  
の実習田で「どろんこ祭り」が行われました。

当日は、同校農業科の2・3年生と教職員62人が参加。泥まみれになって水田を駆け回り、今年のコメの豊作と3年生の来春の就職と進学を成就を願いました。

この祭りは、平成15年度に開始して、今年で7回目。土と水の恵みに感謝し農業の大切さを学ぶとともに、祭りをはじめから同科の生徒全員の進路決定率が毎年ほぼ100%であることから、今では恒例行事として定着しています。

生徒たちは専攻別に分かれて、水田サッカー、リレー、田んぼフラッグなどに参加。ボールを追いながら、ぬかるみに足を取られて転ぶなど泥だらけになって、水田を駆け回りました。また、競技はそっちのけで、先輩後輩や教師関係なく泥の投げ合いや倒し合いなどを行い、お互いの親睦を深めました。  
最後は、全員が手をつ

ないで輪になり校歌を歌って、田んぼに身を横たえて、祭りを終えました。

同校では、約1.2haの水田すべてにおいて無農薬・無化学肥料によるコメ作りを行っています。平成16年度には県内の農業高校では初となる有機農産物のJAS規格を取得しており、そのうち約0.5haではアイガモ農法にも取り組んでいます。

まさに「安心・安全」なコメ作りに取り組んでいる農業科の生徒たち。田植えのあとは除草やジャンボタニシの駆除など手作業で雑草と害虫から稲を守り、10月の収穫に備えます。

## interview



インタビュー

草水 博己 教諭  
県立鹿屋農業高等学校

### 土と水の素晴らしさを理解できる絶好の機会です。

「田植え実習だけでなく何かできないか」と当時の職員で発案した「どろんこ祭り」も7回目となりました。今では学科の一大行事として定着しました。

例年、1年生の田植え実習後に1枚の田んぼだけ残して行うのですが当日は大雨。「今年はさすがに無理かな」と思っていましたが生徒たちの強い要望で実施することができました。

3年生にとっては最後のどろんこ祭りです。このときばかりは先生と生徒の垣根をなくす「無礼講の場」なのですが、例年に比べて私も泥だらけにさせられたような気がします。この祭りは、生徒たちが土と水の尊さを改めて再確認できる絶好の機会だと思います。